

平成 28 年 9 月 17 日

北関東フォーラム

於：シムックス

**中齋塾 北関東フォーラム
平成 28 年度第 8 回**

8 月 20 日の 10 周年記念講演会は、皆様のおかげで無事終わりました。汗をかいて戴きまして有難うございました。幹事会で 10 周年記念講演会の反省を致しましたが、その中で「特殊な講演会にこれだけの人が集まるとは驚いた」という感想を頂戴したという話が出て、「特殊な」という言葉に少々驚きました。講演会に参加された方は、もう少し自分の人生を良くしたい、もう少し収入を得られないだろうか、まだまだ健康でいたい・・・等々の願望を持ちつつ、はたしてこのままこの状態でいけるのだろうか？ というそこはかとな不安がある。だから「これから時代はこう変わる」というテーマに惹かれて参加されたのだと思います。ですから、それほど特殊ではない、ごく普通だと私は思っているのですが、皆さんは如何でしょうか？

普通のことを普通にやっても、自分にあまり馴染のないものだと、世間の人は特殊だと感じてしまうのでしょうか。ならば、「決して特殊な話ではなく、これから良い人生を送りたいと思っているなら、そのコツを中齋塾フォーラムで学んでいるのです」とお話ししてお誘い戴いくのが良いのかなと感じました。

そして活用して戴きたいのは、10 周年記念講演会でも参加者にお配りした中齋塾フォーラムの PR 用小冊子です。これは会員拡大の目的の他に、「中齋塾フォーラムはどんなことをしているの？」という疑問に対してお答えできる資料として作りました。ただし、聞く人にあわせて答えなければいけません。今回は一般の人向けに作りましたから、世間によく知られている論語を意識して入れています。小冊子委員会の栗原委員長が写真をかなり入れて下さったので、ホッと和みます。これをもとにしながら、経営者向けのものや、女性向け、子供さん向け、学者向けも作っていきたいと考えています。

中齋塾フォーラムは来年 3 月で満 10 年を迎えます。来年 3 月 18 日の 10 周年記念式典では、基本哲学「知足」とはこうだという話をしながら 10 年間を振り返って、今後 10 年の展望もお話しようと思っています。小冊子のこういった取り組みについても、お話ししたいと思います。

最近、シムックスとお付き合いをしている或る会社の社長さんに認知症の症状があらわ

れて、お願いした事を忘れてしまったり、会ったことを忘れてしまうようになりました。専務である息子さんには父親の引退を勧め、ご本人は打合せの時などメモをとる癖がありましたので、毎朝ご自分のメモを必ず見る習慣をつけるよう助言しました。

人には匂があります。一流と言われる人物でも、やはり匂があります。匂が過ぎると何事も粗雑になるから気をつけなければいけません。私も忘れる事が多くなりましたので、しっかり聞く耳だけは持とうと思っています。今、私が意識的にやっていることは、花の香りを嗅ぐようにしています。脳が委縮してくると、香りが分からなくなるのだそうです。金木犀のような強烈な香りが分からなくなったら、認知症の兆しだと思って下さい。

恒例の質問

ここ1ヶ月くらいでお考え下さい。

○ 良い日がずっと続いている方

良い日が続くか続かないかは、すべて心の持ち方、受け止め方です。

○ 1ヶ月間、嘘をつかなかった方

○ 1ヶ月間、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方

○ 1ヶ月間、健康法をずっと実践していた方

陽明学の中で大切な考え方に「知行合一」（知るは行の始めにして、行は知るの成れるがなり）があります。自分が実践して初めて、人さまに言える。行動の裏付けがあつて初めて、人さまに教える事が出来るのです。まず行動して、身体で味わっていなければ、人さまにお話することはできません。健康法も同じで、毎日実行していなければ、なかなか人さまに言えない。私は半年間、毎日自転車に乗っていますので、多少なりともその経験は言えるようになりました。

○ 1ヶ月間、我ながらよく自分磨きをやったと思う方

随分手が挙がりました。自分で自分を評価すると、だいたい甘くなります。しかしながら褒めてくれる人はあまりいませんから、多少は甘くなっても仕方がありませんね。

○ 昨晚寝る時に、明日以降を過去形でイメージして眠れた方

過去形でイメージするというのがポイントです。明日、こういうことをやりたい！と思えばしめたもので、それが出来た！と思えばよいのです。私は、8月20日の講演会が終わって来年の3月18日に向けて気持ちが切り変わりましたので、今非常にワクワクしています。寝る時に＜10周年記念式典が出来て良かった。成功！成功！＞とイメージして寝る。そういうことを繰り返しています。

「足るを知る」流れ

基本哲学「知足」考える時には、だんだん「知行合一」を意識いただくとよろしいでしょう。中斎塾フォーラムも10年経ちますから、「知足」、「知行合一」をどんどん実行していきたいものだと思います。中斎塾フォーラムはこれからも続いていきますが、それは「足るを知る」という基本理念があるから、更に「知行合一」という考え方で、実行することが大切だと肌で味わえるので、色々なものに広がっていくわけです。

中斎塾フォーラムから広がる流れの一つとして、國分評議員が「母と子の論語塾」を始めました。比田井副理事長の立ち上げた東久留米市論語素読の会も、どんどん活動が広がっているようです。どうぞ中斎塾フォーラムで色々と学んで、良いと思うことをご自分で世の中に広げて戴きたいと存じます。

論語の視点

では、論語の解説を致します。憲問篇 40～42 です。

【四〇】子曰く、しいわ作者七人。さくしやしちにん

孔子が言うには、世の中に自分を活かせる場がないのを知って、身を隠した者が七人もいる。

七人が誰なのか、孔子は明らかにしていません。

「作」とは、「起（た）つ」とか「行う」という意味がありますが、この「作者七人」については大きく二つの解釈があります。荻生徂徠は「聖人」と捉えています。そうなると作者七人とは、堯、舜、禹、湯、文、武、周公という古代中国の聖人君子といわれた王様になります。

もう一つの解釈は、「作」を「避く」と捉え、世の中に自分を活かしてくれる人間がいな、自分が仕えるに足る君主がないので引退して山にこもる、そういった類の「世に隠れた人」とする学者もいます。すぐ前の章の「賢者は世を辟く（さく）」の「辟」は、時節到来を待って一時身を隠すという意味ですから、同じ「さく」でも違います。

今の時代に置き換えて考えたらどうでしょうか。民進党の蓮舫さんは野田さんを幹事長に起用しましたが、周りから反対の声が沢山上がっています。やはり内閣総理大臣を務めた人は、神棚に祀っておいた方がよいと思います。生き恥を晒しているように感じました。尤も高橋是清のような例もありますから、それくらいの業績を上げてくれればよいと思います。自民党の麻生さんも総理大臣の時に失敗したわけですが、今は副総理としてまあま

あの業績を上げているのであまり叩かれないところだと思います。

【四一】子路 石門に宿る。晨門曰く、奚く自りすると。子路曰く、孔子自りすと。曰く、是れ其の不可なることを知りて、之を為す者かと。

子路が魯の国の城外にある門に来た。門番が、「どちらから来られたか」と聞いた。

子路が、「孔先生のところから参りました」と答えました。

すると門番が「孔先生とは、自分の主張が世の中に受け入れられないと承知しながら、まだ諦めずに諸国を回っている人か・・・」と言った。

駄目だと知りながら無駄な努力をしている人の弟子とは、大変なことだねえ・・・というニュアンスが感じられます。

【四二】子 磬を衛に撃つ。蕢を荷いて孔子の門を過ぐる者有り。曰く、心有るかな、磬を撃つことやと。既にして曰く、鄙なるかな、硜硜乎たり。己を知ること莫くんば、斯れ已まんのみ。深ければ則ち厲し、浅ければ則ち掲すと。子曰く、果なるかな、之を難しとすること未しと。

磬は、石の打楽器。蕢とはもっこです。

孔子が衛の国の自宅で磬を鳴らしていた。

孔子の家の門前をもっこを担いで通り過ぎた者が言った。「この音色は心に何かあるな。世に出てそれなりの実力を発揮したいが、私を受け入れてくれる人はいないものかと嘆じているようだ。」

この人物は、おそらく隠者でしょう。

暫くして、その者が言った。「卑しいことだなあ。用いられることを固く信じて守っている。世の中に受け入れてくれる者がなければ、止めて去るだけのことだ。深い川を渡るには衣を脱いで渡り、浅ければ衣をまくり上げて渡るものだと詩にも歌われているではないか。身のほどを知らなさい。」

孔子がその話を聞いて言った。「その人は思い切りがいいねえ。この世を見限って一人山にこもって、自分だけ良い思いをするようなことは、私はしない。」

無駄な努力だと思われても良い。自分の思いをこの世の中で実現させるために一所懸命諸国を回っているのだ、という孔子の決心が分かります。

この文章を読んで、先日の自民党群馬県連の会長選が頭に浮かびました。中曽根弘文さんは継続してやるつもりでいたのですが不協和音が出たので身を引き、その結果、山本一太さんが無投票で決まりました。自分の志が世に入れられない。その時にじたばたして手を挙げればどうにかなる、というのが今回の会長選の姿だと感じました。

何度も申しますが、論語は現代に置き換えて考える。特に、自分自身の身の回りのことに置き換えてみるとよろしいでしょう。登場人物を身近な人物に置き換えて、例えば子路は〇〇さん、孔子を〇〇さんと置き換えて、こういう会話をしたらどうなるか……。そうすれば論語の読み方もどんどん発展させられます。論語には判断基準が書いてありますから、実に面白いと思います。

忙しい人は齢をとらない

本日のテーマは、「忙しい人は齢をとらない」です。宇野千代さんの書かれた『幸福は幸福を呼ぶ』という本にある言葉です。周りを見渡しますと、70代・80代の人でめっきり老けこんだ人と、若々しく動き回っている人がいます。どこに違いがあるのかと思いましたが非常に単純明快でした。やりたい事があって、そして実際にやっている人、これは若いです。

本の中で宇野千代さんは、「私が若く見えるのは、私の生活が忙しいからである」と言っています。渋澤栄一さんの場合も同じです。息子さんが父親の思い出を書いた本に、「私の父は仕事を次から次に作り出して、仕事を追いかけ回す人間でした」とあります。

やりたい事がある人、言い方を変えると、やりたい事を作り出せる人、これは齢をとらない秘訣ですね。人から言われて渋々やるのは、やりたい事ではありません。自分の心の中から爆発するような、やりたいという気持ちが年がら年中湧き上がってくる。そういう人間であれば齢はとらないでしょう。

その場合、世間から素晴らしい・立派なことだと評価される事をごんごんやる場合も、悪い事ばかりをやる場合でも、エネルギーの質量は同じです。やりたいというエネルギーが良い方向に向かっているのか、悪い方向なのか、それは後世が判断することだと思っています。自分にエネルギーがどれだけあるか、時々考えると良いでしょう。更に、そのエネルギーはどこから湧いているのかを考えてみる。自分のエネルギーはここから生まれるのか！ と腑に落ちた人は、齢をとらない。どうぞ皆様もエネルギー作りが大切だと思って下さい。

もう一冊ご紹介します。『物の見方 考え方』（松下幸之助著 PHP文庫）です。松下幸之助さんは創業の頃、自分の会社の製品の苦情が雑誌社等に寄せられると、そこに担当者が出向いて行ってどこが悪いのかを詳しく聞き、修正するという事を繰り返して、安くて良い製品を作る努力をしていったそうです。やはり伸びていく人は違いますね。人から文句を言われたり、批評されてカチンと来た時に、それを自分のふところに取り込んで自分を改善していく。ここらへんは志がないと出来ません。そういう松下幸之助さんの物の見方・考え方が書いてありますのでお勧めします。

松下幸之助さんは良い言葉を色々残しています。その中の一つ、「体験のなかの失敗や成功の味をかみしめよ」という言葉があります。例えば、営業して回ったけれど仕事が取れなかった時、どうして取れなかったのかを考え噛みしめる。身体中に沁みこませれば、その次が出来る。成功したら、なぜ成功出来たかを考える。そうすれば又、次の成功に繋がる。噛みしめるということがなければ、先に繋がらないということがこの本に書いてあります。

時事評論

今朝の日経新聞から気になった記事を申します。

・地銀の貸し出し 新指標で変化も

麻生太郎財務・金融相は 16 日の記者会見で、「地域金融機関の地元への貢献度などを測る金融庁の新指標（ベンチマーク）について「(各機関が) 変りうるチャンス」と述べた・・・とあります。

金融庁は昨年 7 月に長官が変わって、今迄の方針を 180 度変更しました。今まで金融庁は、各金融機関に貸し出しがどれくらいあるかという資産査定を中心に健全性を判断していたといいます。今は、各金融機関が取引先に対してどんな提案をしたか、取引先の発展にどう貢献したか、等総合的に調べる指標を作ったとのこと。

8 月 20 日の講演会では地元銀行 3 行の行員の方が沢山参加して下さいましたので、お礼に伺いながら、この件についてどういう対応をしているか聞いてみました。或る銀行は計数管理をしていました。取引先にどういうアイデアを出した、こういう貢献をしたという内容を本部に提出していました。別の銀行では金融庁の方針変換について、銀行の資産を増やすようにと捉えて、取引先を発展させるというところには意識がいないと感じました。銀行によって感度が大分違いましたので、おのずと銀行の評価もして来ました。ですから新聞に書いてあるものも、自分自身の行動に繋げる必要があります。新しいベンチマークで銀行にも変化が出るという、こういう小さな記事を見逃さないようにして下さい

い。

・豊洲3棟 落札率99%超

小池劇場が始まっていますから、マスコミは意識的に前の知事がいかに酷いかを強調して書き出していると感じます。風向きが変わったから、そちらに向かって野次馬的発想で書き始めました。だらしのない見出しだと思います。

・国際的税逃れ 日本にも網 ーパナマ文書を機に包囲網

いかにも大見出しで正義の味方のような書き方をしていますが、中身は、財務省の御用新聞になってどうするのかと思います。政府は税金はどんどん上げる、収入はどんどん減らす方向に向かっていきます。当然、国民はダブルパンチでもっと苦しくなります。1%対99%のアメリカ型の二極分化がどんどん進みます。

日本の中で生き残るためにはどうしたらよいか……。こういう新聞を見れば見るほど、そのよって立つ所は何かを意識して見なければ危ないと思って下さい。メディアで報道するもの、新聞・テレビ・ネットの本音は何か、本人たちの本音も分からないのに読む必要はありません。本音が分からなければ、流れを見ておく必要があります。

今、新聞、特に雑誌はどんどん売れなくなっています。先日、お付き合いしている出版社に行きましたら、出版社も結構潰れていると言っていました。良いなと思う本が売れないそうです。それは単純に電子書籍が出たからではなくて、若者を中心に凄まじい活字離れが起きていると捉えました。どうぞ中斎塾フォーラムで学んでいる人は、活字離れをせずに、積極的に活字に馴染んで戴きたいと存じます。

お時間が参りました。以上で本日の講話を終了致します。